

人を対象とする医学系研究についての「情報公開文書」

研究課題名：中心性漿液性脈絡網膜症における脈絡膜血管透過性亢進と脈絡膜外層血管との関連

・はじめに

中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)は黄斑部に漿液性網膜剥離を生じる疾患である。脈絡膜循環障害による網膜色素上皮機能異常により、網膜色素上皮側から網膜下に漏出が起こり、網膜下液が蓄積する疾患で、多くの例では一過性の視力低下や変視症が生じたりします。少数例では網膜下液が遷延化し、視力障害が高度に出現することがあります。現在までにCSCの病態は勢力的に検討されてきました、未だ本質的な原因は未解明です。

1997年光干渉断層計(OCT)が開発され、網膜を未侵襲で観察することができるようになりました。2013年にはSwept source OCT(SS-OCT)と呼ばれる器械が上梓され、網膜のみならず、脈絡膜の観察が非侵襲的に可能となりました。

広江らはこのSS-OCTを用い、CSCにおいて、脈絡膜血管が網膜裏面において非対称に拡張し循環の不均衡が発生している可能性を報告しました。

そこで今回、我々はCSCにおける病態解明をさらに進展させるため、CSCにおける脈絡循環障害をインドシアニングリーン蛍光造影検査で評価しSS-OCTでとらえた脈絡膜血管の形態的变化や分布とどのように相関するかを評価します。

・研究に用いる試料や情報の利用目的と利用方法（他機関に提供する場合にはその方法を含みます）について

研究対象者は保険診療内で、中心性漿液性脈絡網膜症に対して受診毎に視力、眼底写真、光干渉断層計(SS-OCT)、眼底自発蛍光を施行しており、さらに、診断時にはフルオレセイン、インドシアニングリーン蛍光眼底造影検査、OCTAが施行されています。これらのデータは群馬大学医学部附属病院眼科外来の検査機器に付属した保存媒体に保管されているとともに、診療録にも保存されています。本研究では、これらのデータを後ろ向きに解析します。具体的には、視力、またSS-OCTあるいはOCTAで撮影された中心窩網膜厚、中心窩下脈絡膜厚、脈絡膜血管密度、分布、インドシアニンググリーン造影パターンについて解析します。

・研究の対象となられる方

群馬大学医学部附属病院眼科を2018年1月1日から2018年4月30日に受診し中心性漿液性脈絡網膜症と診断された28例を対象とします。参加拒否の申し出を9月30日まで受け付けます。

・研究期間

研究を行う期間は医学部長承認日より2018年11月30日です。

・研究に用いる試料・情報の項目

試料・情報の採取方法:診療録から以下のデータを抽出します。具体的には視力、SS-OCTまたはOCTAで撮影された中心窩網膜厚、中心窩下脈絡膜厚、脈絡膜血管密度、分布、インドシアニングリーン造影パターンについて解析します。

・予想される不利益(負担・リスク)及び利益

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。また、本研究により被験者となった患者さんが直接受けることのできる利益及び不利益(リスク)はありませんが、将来研究成果はPDTが網膜に及ぼす循環障害の機序の解明やその防止の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性があると考えています。疾患に対する検査、治療は保険診療内で行われ、その他の経済的負担や謝礼はありません。

・個人情報の管理について

個人情報の漏洩を防ぐため、群馬大学医学部眼科学講座においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしています。また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は含まれません。資料は最後シュレッダーで廃棄します。管理責任者:馬郡幹也

・試料・情報の保管及び廃棄

研究のために集めたカルテのデータは部外者には個人を特定できない状態で群馬大学医学部眼科学講座に保管します。情報・対応表は2018年11月30日に廃棄します。研究のために集めたカルテのデータは部外者には個人を特定できない状態で群馬大学医学部眼科学講座に保管します。

・研究成果の帰属について

この研究により得られた結果が、特許権等の知的財産を生み出す可能性があります。その場合の特許権等は研究者もしくは所属する研究機関に帰属することになり、あなたにこの権利が生じることはありません。

・研究資金について

研究資金は講座経費で行います。

・利益相反に関する事項について

研究グループが公的資金以外に製薬企業などからの資金提供を受けている場合に、臨床研究が企業の利益のために行われているのではないか、あるいは臨床研究の結果の公表が公正に行われないのではないか(企業に有利な結果しか公表されないのではないか)などといった疑問が生じることがあります。これを利益相反(患者さんの利益と研究グループや製薬企業などの利益が相反している状態)と呼びます。この研究の利害関係については、群馬大学利益相反マネジメント委員会の承認を得ております。また、この研究過程を定期的に群馬大学利益相反マネジメント委員会へ報告などを行うことにより、この研究の利害関係について公正性を保ちます。

・「群馬大学 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」について

この研究を実施することの妥当性や方法については、多くの専門家によって十分検討されています。群馬大学では人を対象とする医学系研究倫理審査委員会を設置しており、この委員会において科学的、倫理的に問題ないかどうかについて審査し、承認を受けています。

(ホームページアドレス:<https://www.rinri.amed.go.jp/>)

・研究組織について

この研究は群馬大学医学部附属病院眼科が行います。

この研究を担当する研究責任者、研究分担者は以下のとおりです。

研究責任者

所属・職名:群馬大学医学部眼科学講座助教

氏名:向井 亮

連絡先:027-220-8338

研究分担者

所属・職名:群馬大学医学部眼科学講座研究員

氏名:中村 考介

連絡先:027-220-8338

・研究対象者の権利に関して情報が欲しい場合あるいは健康被害が生じたときに連絡をとるべき相談窓口について

研究対象者がこの研究および研究対象者の権利に関してさらに情報が欲しい場合、または研究対象者に健康被害が発生した場合に、研究対象者が連絡をとる担当者は下記のとおりです。何かお聞きになりたいことがありましたら、どうぞ遠慮なくいつでもご連絡ください。試料・情報を研究に用いることについて、対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。研究対象者とならない場合でも不利益が生じることはありません。

【問合せ・苦情等の相談窓口(連絡先)】

所属・職名:群馬大学医学部眼科学講座助教

氏名: 向井亮

連絡先: 〒371-8511

群馬県前橋市昭和町3-39-22

Tel: 027-220-8338

上記の窓口では、次の事柄について受け付けています。

(1) 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧(又は入手)ならびにその方法 他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。

(2) 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続(手数料の額も含まれます。)

(3) 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明

(4) 研究対象者から提供された試料・情報の利用に関する通知

試料・情報の利用目的および利用方法(他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)

利用し、または提供する試料・情報の項目

利用する者の範囲

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称

研究対象者またはその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること、およびその求めを受け付ける方法